

LIBRARY



あっという間に1月も終わりですね。今年の目標を立てた人、順調ですか？立てなかった人は、次の機会は進学・進級の4月かな。

『銀河の図書室』 名取佐和子著 実業之日本社 2024



『図書室のはこぶね』の続編。野亜高校の弱小同好会イーハト一部は、宮澤賢治の作品を読んだり研究したりする。新2年生になった高田千樫通称千カはキョンへと一緒に部員の勧誘に出向く。新入生の増子耶寿子が早速入部を希望する。がひとつ問題が。部長の風見昂祐が去年の途中から不登校を続けている。なぜ風見は学校に来られなくなっているのか。賢治の言葉や詩とともに、物語は進んでいく。宮澤賢治が好きなら、倍楽しめる青春ストーリー！

『いのちのつばみ』 志津谷元子著 偕成社 2024



大学進学のために、山口から上京し、はるかの家の近くに住み始めたいとこの芽久美さん。それまでは遠い存在だったのに、どんどん親しくなり、今や憧れの女性と言ってもいい。ところが、ある日心優しい芽久美さんは踏切で倒れているおじいさんを救おうとして、命を落としてしまう。大きな喪失感を誰もが感じるが、それでも大人たちは日々の生活に戻っていく。けれど、中学生のはるかはそんなふうには心を切り替えることができない。

『王都の落後者：ソニンと空人』 沢村凜著 新潮文庫 2020



執筆4年、原稿用紙1800枚という大長編。異世界ファンタジー好きなあなたにおススメのシリーズです。物語の主人公は、名将の一人息子でありながら、退廃した生活をしているソニン。彼は落とした大金を拾おうとして溺れ、気がつけば雲の中。そこにいた空鬼のきまぐれで、見知らぬ国に落とされる。新に空人という名前をもらい、新しい人生を生きると思いきや、過去の記憶はシッカリ残り…。物語の底流には、父と息子、国家と個人という重いテーマが。

『アドニスのがきこえる』 フィル・アール著 小学館 2024



第二次世界大戦下のロンドン、母は家をでてしまい、父親は出征中という12歳の少年ジョーゼフを、祖母は知人の女性ミセスFに預けてしまう。寂しさと怒りを抱えるジョーゼフは、ディスレクシアゆえか、自分の気持ちをうまくコントロールできない。私設動物園を経営するミセスFは、ジョーゼフに動物園の手伝いをさせる。動物園には老いたゴリラ、アドニスがいた。最初こそ怖さを感じたが、いつしかアドニスとジョーゼフと心を通わせ…。

『ローミング』 マリコ・タマキ作 トゥバージズ 2024



2009年3月。高校時代の親友ダニエルとゾーイはNYで再会。ダニエルの友人フィオナと3人で観光めぐりをしながら、会話を楽しむ。大学生活のこと、家族のこと、将来のこと、自分のセクシャリティのこと。そのことで、ダニエルとゾーイの仲はなぜか揺らぎ始める。今、アメリカで熱いグラフィック・ノベル！

『あいだのわたし』 ユリア・ヴァイビッツ著 岩波書店 2024



難民認定を待ちながら施設で暮らし、学校に通う15歳のマディーナの日々が日記のように綴られる。家族は両親と弟と叔母。父を尊敬はしているが、ドイツ語を覚えようとはせず、祖国の価値観で女であるマディーナを縛り、時には暴力をふるう。両親とも弟への扱いが明らかに違う。叔母には触れてはいけないナニカがあることも感じている。学校の友だちは優しく、マディーナを気遣ってくれるが、その気遣い自体がマディーナの気持ちを沈ませる。やがて大きな決断を迫られる一家。はたして進むべき道は？！

『『土偶を読む』を読む』 望月昭秀他 文学通信 2023



前回のLibraryで紹介した『土偶を読む』ですが、一般書ゆえ、研究者たちはこの本へのあからさまな批判はしなかった。が、サントリー学芸賞をとり著名人も絶賛、子ども向けの本まで出たことから、「ちょっとまった！」と声上がり、この本が出版されました。本当は公開討論会をしたかったらしいのですが、これは『土偶を読む』の著者が応じなかったらしいです。いったい何が問題だったのか…気になった人はぜひ2冊とも読んでほしいです…。

『阪神・淡路大震災から私たちは何を学んだか』 阪本真由美著 2024



阪神淡路大震災当時、神戸大学の学生で海外での勤務を考えていた著者が、最終的に選んだのは防災研究者でした。30年を迎えた節目に、当時の災害対策のどこが失敗だったのかを、検証したのがこの本です。30年前は、中学生にとっては昔のことかもしれません。東日本大震災でさえ、乳幼児あるいはまだ生まれてさえいなかった皆さんです。しかし、30年以内に南海トラフ巨大地震の発生確率は80%と言われる今だからこそ、読まれるべき1冊だと思います。

『へび学』 ジャパンセンター著 小学館新書 2024



ジャパンセンターとは、日本にある唯一のへび専門動物園だ。そしてそこで働く人は、飼育員である前に、へびの研究者なのだ。へび好きと思われがちだが、好きというより、へびに強い興味関心を持っている人たちの集団だという。時にはへび毒の解明のためにへびの命を奪わねばならないので、確かに好きだけでは務まらない。この本を読むと、へびの毒・鱗・脱皮・動きの秘密がわかる。それこそ目からウロコ。へびを自宅で何十匹も飼っている岡田先生推薦の書。

『サガレン』 梯久美子著 角川文庫 2023



サガレンとは、樺太の別名です。間宮林蔵は、樺太が半島なのか島なのかを知るために、上司と別れて右と左に一周しようとしたとか。ロシアにとっては樺太は、流刑地でもありました。日露戦争に勝利した日本は、1905年樺太の北緯50度以南を領土とします。1923年、宮沢賢治は、最愛の妹を失った痛みを樺太で癒す旅に出ています。著者の2度目の樺太への旅で、賢治の足跡をたどりながら、樺太の歴史を紐解いていきます。第二次世界大戦後、日本は樺太を手放しますが、今もここかしこに、日本人が残した様々なものがあるのです。読むと知らないことばかり…。

1月にはいった本の一部です。リクエストは常時受け付けています。

登録番号	NDC	書名	著者名1	出版者
040209	159	これから大人になる77に伝えたい10のこと	サヘル・ローズ 著	童心社
040206	210	きょうだいの日本史	『日本歴史』編集委員会	吉川弘文館
040201	369	72時間生きぬくための101の方法	夏緑 著	童心社
040203	374	10代からのヘルスリテラシー	松本俊彦 監修	大月書店
040197	383	東大ファッション論集中講義	平芳裕子 著	筑摩書房
040202	481	クジラがしんだら	江口絵理 文	童心社
040211	487	ヘビ学	J・スネークセンター 著	小学館
040191	627	あなたの知らない美しく怖い花言葉	池上良太 文	新紀元社
040199	702	こじらせ恋愛美術館	ナカムラクニオ	ホーム社
040196	723	線の迷宮Ⅲ齋藤芽生とフローラの神殿	齋藤芽生	目黒区美術館
040195	723	徒花図鑑	齋藤芽生	芸術新聞社
040198	768	マンガでわかる雅楽	遠藤徹 監修	誠文堂新光社
040212	913	銀河の図書室	名取佐和子	実業之日本社
040214		いのちのつぼみノート	志津谷元子	偕成社
040216	933	車いすでジャンプ	モニカ・ロー	小学館
040215		ローミング	マリコ・タマキ作	TWO VIRGINS
040221		アドニスの声が聞こえる	フィル・アール	小学館
040189	949	ブリクセン/ディネセンについての小さな本	スーザ・シュミット=マスン	子ども時代
040222	E	もしぼくが本だったら	アンドレ・レトリア 絵	KTC 中央出版

今年は巳年！ということでヘビに関するコーナーをつくってみました。



ヘビという言葉が書名に入っている小説も探してみました。『蛇にピアス』『蛇を踏む』『球体の蛇』『薔薇の中の蛇』『白蛇伝』などです。この機会に、気になった人は手に取ってみてください。

小学館新書のヘビ学を読むと、たとえばヘビとトカゲの違いは何かをひもとくと、足の有無では分けられず（アシナシトカゲという足のないトカゲがいるので）

眼や耳や顎の特徴から分けることができるらしい。ヘビは卵生かと思いきや、胎生のものもいるとのこと。ヘビの寿命はアナコンダなら、40年も生きるらしい。ヘビのこと、何も知らないなあと思いますが、ヘビに限らず、大概のことはよくわかっていないのが、私たちかも。今年は巳年、ヘビ学、身につけてみませんか？

『十代がえらぶ海外文学大賞』が始まります！

十代の皆さんにぜひ協力してもらいたいイベントが来年始まります。それは「十代がえらぶ海外文学大賞」です。まずは昨年一年間に出版された十代を主人公にした海外文学作品の中から、良かった作品を投票してもらい、翻訳者さんなどで構成された審査員が、7作品に絞り込みます。

その7作品を紹介する冊子などが、ホームページからダウンロードできるので、各学校でその7冊を紹介したり、ビブリオバトルなどを展開し、皆さんに手に取ってもらう機会を設けます。そして一人1票、投票をお願いします。11月ごろに、大賞を発表し、何らかのイベントを行う予定です。

なぜ、このような賞を設定したかといえば、なかなか翻訳作品が読めない現状をととても残念に思ったからです。読めば面白い作品がいっぱいあるので、それを知ってもらいたいと。

そんなわけで、世中の図書委員会も、ぜひ何らかの形で協力していきたいと思っています。



こんなことやってます！



77回生 国語 平家物語の世界を歩く～諸行無常、そのころ～



平家物語のリレー朗読に取り組んでいる77回生。この日は、お試しのジャパンナレッジスクールのログイン方法も伝えることができました。平家物語関連書籍に手を伸ばす人は少数でしたね。しばらくコーナーを設置しておきます。

76回生国語「知る」ことで「見える」もの



渡邊先生の国語は、上記テーマで5時間の授業を図書館で実施中。「中学生生活を豊かにする140冊」ということで、新入生に読んでほしい1冊を選んでPOPを作成中。図書館や読書についても考えてもらう時間だったので、司書の村上からは、10分時間をもらって「図書館と出版」をテーマにブックトークをさせてもらいました。江戸のメディア王蔦屋重三郎の大河ドラマを見ている中学生は意外と少ないのですね。今からでもぜひ。